

八木明彦の略歴

昭和20年12月17日生まれ、新潟県新発田市

学歴

昭和42年 名古屋工業大学工業教員養成所工業化学科卒業

昭和47年 名古屋工業大学第2部工業化学科卒業

平成6年 名古屋大学 博士(理学)

職歴

昭和63年 名古屋女子大学教授

平成17年 名古屋女子大学名誉教授

平成17年 愛知工業大学工学部教授

学会・社会活動

日本陸水学会(含む庶務幹事、評議委員)、

日本陸水学会東海支部会会長(現在)、

日本水環境学会(昭和57年より)、

名古屋市環境影響評価審査特別委員(藤前干潟、水質)

日本博覧会協会 環境アドバイザー委員

愛知県と名古屋市 河川整備計画流域委員(堀川、庄内川など)

国土交通省豊橋河川事務所 矢作川自然再生計画勉強会(座長)

研究分野

- 1 長野県の湖沼深見池を研究の場とし、化学物質と微生物の役割を研究し、
1) マンガン還元菌、2) 紅色非イオウ細菌、3) マンガン酸化菌、 について、研究をして行っている。世界的な陸水学の教科書である、Wetzel 著「Limnology」で、図入りで数ページにわたり研究が紹介されている。
- 2 湧水にしばしば見られる赤土と赤水について、鉄バクテリアを3種類同定し、かつ、従属栄養細菌であることから、水中の有機物を消費しながら鉄を酸化していることを明らかにした。
- 3 最近では、地球温暖化ガスの発生として、メタン、一酸化二窒素の湖沼や藤前干潟での動態を研究。特に、干潟保全について、NPO 藤前干潟環境修復部会長として、各種の提案をしている。
- 4 中部国際空港島建設に伴う周辺海域環境変化について、2002年より研究会を立ち上げ、継続して日間島漁民・周辺漁業組合と共に調査・研究をし、日本海洋学会「海の研究」に発表と、また、COP10に向けての生物多様性の立場から、08年にはオアシス21で、また、漁業組合・海洋学会シンポジウムでそれぞれ発表し続けている。